

昭和51年度第3回融合炉核データWG会合議事録

日 時：昭和51年12月17日（水）13:30~17:00

場 所：東海研 研2棟222号室

出席者：神田（九大），村田（NAIG），西村，浅見（哲），中島，関，菟田，田中（原研）

配布資料：(1) 10月22日および11月24日のサブグループ会合議事録

(2) 融合炉核データ・プロット作業のためのフローチャート

(3) プロット作業上の問題点

(4) 融合炉核データリクエスト・リストのテーブル

(5) NESTOR フォーマット（一部）

(6) Preliminary plot の output（各自の分担分）

議 事：核データの収集・プロット作業の進め方と分担

(1) サブ・ワーキング・グループによる作業の報告（主に田中）

- 原研メンバーによる作業の経過，問題点，それに対する対策などを資料(1)，(2)，(3)に沿って報告し，討議事項を呈出した。
- 今後の作業はほとんどサブグループ案通り了承されたが，グラフの縦軸は Linear より Log を原則とした方がよいであろうということになった。
- EXFOR のプロット・アウトが①適当なデータか？ ②missing data があるか？ ③あれば入力作業を行うこと（グラフのタテ軸，ヨコ軸の指定も行う）などの作業を全メンバーが分担して行うことにした。分担は資料(1)に示す通り。（ただし，伊藤，小林，伊尾木の各氏の分担については今後本人達の上承を得る。）

(2) 分担作業の進め方の詳細について（主に浅見）

- 配布資料(5)に沿って，NESTOR フォーマットへの記入方法が説明された。（上記の全メンバーが分担して行う入力作業はNESTOR フォーマットへの記入という形で行うことにした。）

(3) プロット作業の範囲

どの範囲の部分断面積をプロット作業の範囲に含めるかについて、配布資料(4)について逐次明確にして行った。考え方は次の通り；

- (i) スペクトルのプロットは今回の作業に含めない。
- (ii) リクエストがある場合には角分布プロットも含める。
- (iii) Inelastic は、終状態の低い 2, 3 のレベルへの非弾性散乱
〔(n, n') および (n, n' r)〕を各レベル毎に別のグラフとしてプロットする。
- (iv) Total photon production の場合にはさらに (n, r) プロットと (n, n' r) プロットを行う。〔(n, x, r), x ≠ n は今回のプロット作業に含めない〕 (n, n' r) プロットには上記(iii)のとりきめを適用する。
- (v) ${}^6\text{Li}$, ${}^{12}\text{C}$, Mo および Mo isotopes に対する energy differential は文字通りに採ればスペクトルを意味することになりプロットの範囲から除かれるが、リクエストの主旨から角分布のプロットを行う。
- (vi) Absorption は (n, r), (n, p), (n, a), (n, t) ……に対する別々のプロットに置きかえる。
- (vii) その他の部分断面積については、リクエストの表通り。

(4) 作業期限

- (i) 原研メンバーは '77 年 1 月末までにできるだけの作業結果を持ち寄って会合を行う。
- (ii) 全員 2 月末日までに分担分の作業を完成させる。